

＜東地区チーム＞アクションプラン

子育てファイルで、大人が「つながり」、子どもを「ささえる」東地区

I はじめに

稚内市子どもの貧困対策プロジェクト会議において、子どもたちの貧困の連鎖を断ち切るために、基本理念として「『連携』をキーワードに『オール稚内』で取り組みましょう」と提言されました。東地区チームでは、この理念を受けとめ、「オール稚内」の具現化を目指し、福祉、学校教育、社会教育の分野での支援を切り口に、協議・検討を進めてきました。

その中で、「就学前～学校～就労の各段階における各機関での支援」ならびに「学習支援・生活支援」を一貫・連携して推進すること重点に、『孤育てさせない街づくり』をキーワードとして具体策を模索してきました。

II 『孤育てさせない街づくり』を東地区から築きあげる

「孤育て」させないためには、様々な結びつきこそが欠かせませんが、その方策の一つとして、『子育てファイル』を浸透・活用することで、ファイルを通して行政や学校とのつながりだけでなく、人と人とのつながりを築くことにつながると考えました。そこで、東地区は『子育てファイル活用推進地区』（仮称）として、学校と行政が一体となってファイルの積極的な活用を推進してきました。

1 なぜ、子育てファイルなのか

子育てファイルは、平成28年度から配布されている稚内市の子育て支援の取組の一つです。子どもたちの健やかな成長と子育ての支えになることをめざしてつくられました。

東地区は、子育てファイル活用推進モデル地区として、「孤育てさせない街づくり」を重点の一つとしています。ここで言う「孤育て」は、孤立した状態の子育てをあらわした言葉です。そして、平成29年度は「大人がつながり、子どもを支える東地区」をアクションプランのテーマにしました。

誰にも相談できなかつたり、どこからも手がさしのべられていない孤立した子育てをなくすために、人と人とのつながりを増やし、ネットワークを広げる必要があると考え、人と人が、つながるためのツールとして「子育てファイルの活用」に着目しました。

＜稚内市子育てファイル「あゆみ」＞

○H28年度から配布開始

- ・子どもたちの健やかな成長と子育ての支えに
- ・現在は、出生時、4歳児、小学校入学時に配布

※のちに出生時のみ

○子どもの成長を記録～家庭で記録

○子どもの様子を共有

2 「孤育て」させないために…人と人をつなぐ

子育てが孤立した状態になっている親子のまわりには、行政も学校も、そして地域にもたくさんの人々がいますが、つながりが途絶えている、もしくは希薄になっていることが多いものです。そんなときは、見えない壁ができてしまい、ますます誰にも相談できず、救いの手も届かないものだと思います。そこで、子育てファイルを通して、子育てファイルを共通の話題にして、つながりをひろげ、たくさんつながりの中から、手をさしのべたり、情報を得たり、伝えたりすることができるのではないかと考えました。そうなることで、人や制度など、救いの手が何か一つでもとどけられるのではないかと考えています。まずは、保護者どうしのつながりを広げ、強める第一歩として、モニター制度そしてモニター茶話会を企画しました。

Ⅱ モニター茶話会について

モニターを東地区の声間小学校、稚内東小学校で募集しました。書き方や使い方の悩みを交流したり、先輩の声を聞いたり、一緒に使い方を考えていきましょうと呼びかけたところ、声間小から2名、東小から5名の方がモニターになってくださいました。

1 茶話会の様子

茶話会では、まずはじめに、表教育長より、委嘱状が手渡され、「今時、日記のように綴る方は少ないとは思いますが、子どもの成長を記録しながら子どもと向き合っていくことも価値のあることだと思います。」と挨拶していただきました。次に、話題提供として、メンバーの一人でもある稚内市生活福祉部健康づくり課長の細川さんから、ご自分の子育ての経験や保健師の立場からみた子育てファイルについて話題提供していただきました。



その後、意見交流を行いました。まずはじめに自己紹介を兼ねて我が子の自慢できることを交流しました。「いつも笑顔」「めげないところ」「努力家」「やさしさがある」「責任感が強い」等々、お母さん方はわが子の良いところをすぐに見つけていました。そして、子育てファイルの活用について、たくさんのお母さんの意見が交流されました。



- 我が子の自慢（自己紹介）
- 書いてみて思ったこと
- 良いところ、改善点、要望
- 活用が広がるためのアイデア

2 意見交流より

交流では、保護者（使用者）の目線から、実際に記入したり、使ったりした、生の声を聞くことができました。また、今後につながる改善点等の意見もたくさんありました。

3 つながりがみえました

意見交流から、たくさんのつながりも見え、子育てファイルの活用で人と人とのつながりは確実に広げられると確信しました。

- ◎ 子どもと一緒に書く、一緒に選ぶ、ことで「親子のつながり」が深まります。記録を将来、一緒に振り返ることも素敵なことです。
- ◎ 先生と書く。学校で書く、ことで、「保護者どうしや保護者と学校のつながり」が広がります。悩みの共有や情報交換にもつながります。
- ◎ 書いたことを活用することで、学校や関係機関とのつながりが強まります。情報共有は、連携や支援の第一歩です。

<保護者として>

- 配布が母子手帳といっしょだと書き始めやすそう。
- 写真をはることは取り組みやすい。
- 医療機関受診ページは書きやすく、活用しやすい。
- 書いておくといろいろな相談時に役立つ。など

<行政より>

- 赤ちゃん専用ページあります。追加ページできます。
- 配布時期や、より使いやすさを求めて改善を。

<学校では>

- 入学のしおりなど差し込みできるプリントを。
- 参観日等の懇談会で持ち寄って。

Ⅲ おわりに

子どもの貧困問題、また、その連鎖を断ち切るためには、教育や福祉の充実はもちろん、地域や関係機関の緊密な連携は欠かせません。「縦・横・ななめ」のつながりによる教育や支援の充実ができる稚内市の利点を生かした解決の道を今後も探っていきたいと思います。

今はまだ、東地区の中でも小さな一歩ではありますが、このつながりが、東地区はもちろん、市全体にも広がっていくものと信じ、今後もチーム一丸となって取り組んでいきます。